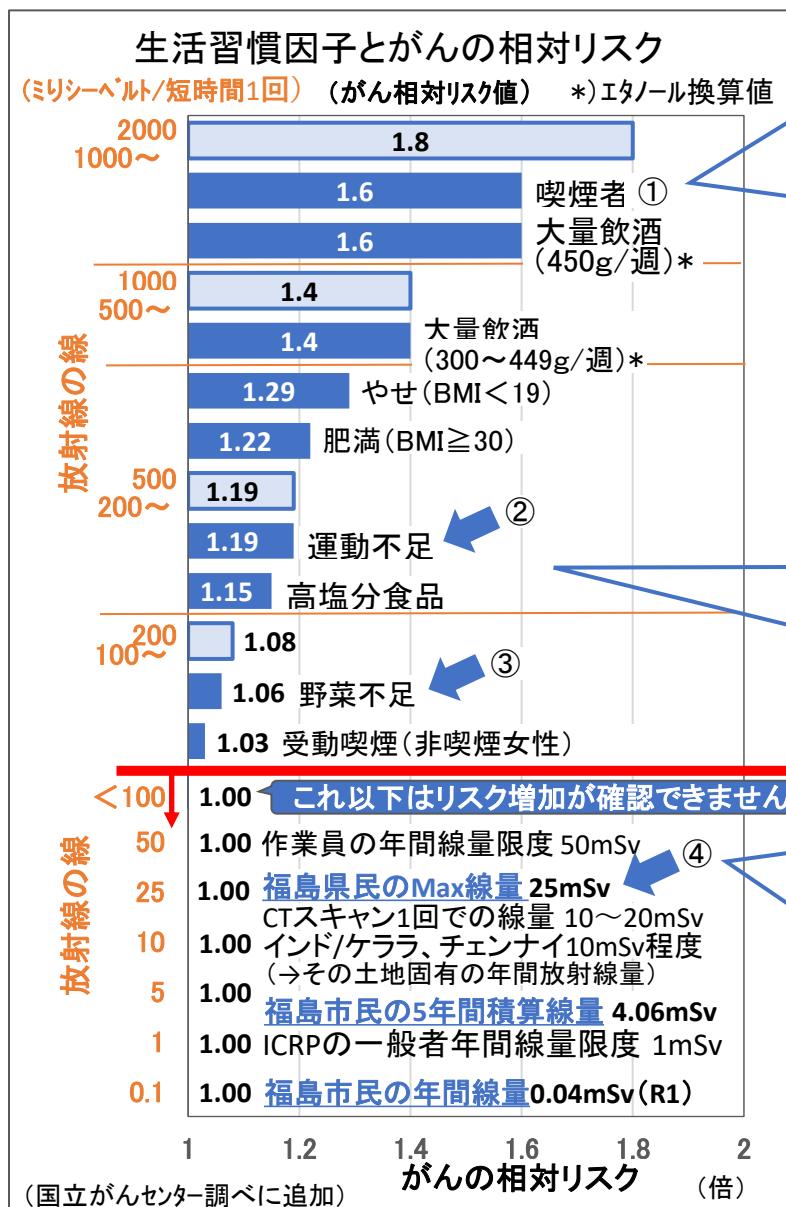


IV-1-⑤放射線のリスク比較(生活習慣因子とがんの相対リスク)

私たちは様々ながんの原因に囲まれて暮らしています。

放射線とその他要因のリスクを見る化し、相対的な関係を理解することが重要です。

例えば、運動不足や野菜不足によっても、がんになるリスクが増える(図の①1.19倍、②1.06倍)ものの、一方原子力事故による被ばくのリスク増加は確認できない(Max線量25mSvでも同③1.00倍)低いレベルとなっています。(国立がん研究センター公表)



図の解説1

- 青色の棒線は、がんになる因子と相対リスクの数値です。
- 例えば、喫煙者は喫煙しない人と比較し、1.6倍のリスクがあり、それは、1000～2000mSvの放射線被ばくと同じ、という意味です。

図の解説2

- ②(運動不足)は1.19倍のリスクがあり200～500mSvの放射線被ばくと同じ
- ③(野菜不足)は1.06倍のリスクがあり100～200mSvの放射線被ばくと同じ

図の解説3

- ④は1.00倍で、がんになるリスクは増えないという意味です。
- つまり、100mSv以下ではリスクが増えないのです。

出典: 環境省資料1(放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料)

同上資料1-2

福島県「県民健康調査」報告

ひろば505号(東北放射線科学センター理事長解説)

上記の資料を基に当会で作成

(相対リスクとは)

相対リスクとは、生活習慣因子がない人(被ばくしていない人)を「1」とした時に、生活習慣因子を持つ人(被ばくした人)のがんリスクが何倍になるかを表す値です。

喫煙や大量飲酒の習慣は、1,000～2,000 mSvの放射線被ばくと同程度の発がんリスクがある(1.6～1.8程度)と推定されています。